

職員各位

特定非営利活動法人にじのこ  
デイサービスにじのこ給田

## 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表アンケート結果のお知らせ

日頃より、当法人の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、先日ご協力頂きましたアンケートの集計結果をご報告致します。改善点も含め、支援の質の向上と支援内容の適正化を図るための努力をしておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	13	1		・身体の高い利用者が多い時間帯は狭さを感じる場合もあるがベランダや庭も活用しながら分散できるようにしている。
	②	職員の配置数は適切であるか	12	2		・密にならないように配慮しながら適切な体制を整えた。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	13	1		・トイレ等に関してはバリアフリー化がなされている。本棚等には安全クッションを付けるようにしている。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	10	2		・P は一部職員のみ、D と C は全職員、A の一部は全職員が参画している。・普段のミーティングやアンケート等でいろいろな職員の意見を吸い出すようにしながら常勤職員が話し合って事業所の目標を設定し、振り返るというプロセスを続けてきた。・すべての職員が参画できるように職員の意識の向上を目指したい。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	11	1		・よくわからない。・追加利用希望で緊急性の高いケースに関しては感染予防を考えながら対応した。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	12	1		・年 1 回ホームページに公開し保護者にも周知している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	13			・平成 30 年度に第三者評価を実施し、結果で出た改善課題を継続して目標に取り入れて実行している。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	14			・外部研修も含め周知している。・コロナ禍の今も動画を利用した研修が行われてい

					る。・オンライン研修を導入し、意見、課題等は後日書面で公表。・コロナ禍のため積極的に出向いてはいないが、オンライン上での研修を受講する機会を法人として設けた。・ZOOMを導入して研修の機会を増やした。	
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	11			・常勤職員が行っています。・普段の子供の様子を観察したり面談時の保護者からの聞き取りを行ったりしながら、その時の状況に合う個別支援計画を作成するように努めている。・日々の具体的な記録を参照して計画作成に活かしている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8	2	1	・よくわからない。・標準化と言う視点ではないが、指標の判定を行う際に行動判定票を使うことがあった。・発達検査等のアセスメントツールは使用していない。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	11	1	1	・今年度は「にじのご商店街」というテーマを設けながら、どういう内容が良いかを適宜職員同士で意見交換し、活動の幅を広げることができた。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	13	1		・今年は昨年より改善されていると感じた。・新しい人材、プログラムを加えている。・行事が多い時にはあえて固定化するケースもあるが子どもたちが興味を持っていることや季節の題材を取り入れながら固定化しすぎないように配慮している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	12			・平日は利用時間が短い利用者に対して休日や長期休暇等にはじっくり取り組めるようなプログラムに参加できるように配慮している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	13			・集団活動の中にも、宅配ごっこ(注文票を自分で書く、写真を貼った数と同じ数の商品を受け取る)等、一人一人の状態によって内容を変える等個別の活動を取り入れるよう意識してきた。・個別と集団での活動を日々のプログラムに設けている。子どものその時の状況に応じてマンツーマン対応を取る等しながら観察し、計画に盛り込んでいる。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	15			・活動開始前には打ち合わせを行い、直近の利用者の様子やヒヤリハット、その日のプログラムについて確認している。ヘルパーと

					して後から来た職員にも個別に行っている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	15		・ヘルパーを兼ねている職員も多く、最後まで参加できないことがある。・コロナ禍のため、一部職員がヘルパーで出ることが増え、出勤時間を変更した職員もいるため以前よりも参加人数が少なくなっているが、振り返りで意見を共有している。特に必要な内容は連絡票に書いて共有している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	15		・記録の書き方については必要に応じて研修を行う等している。リフレーミングの視点を取り入れ少しでもプラスにとらえられるようにしている。(ヒヤリハットは別に書き数か月ごとにデータをまとめている)・記録の取り方に関して職員それぞれ個人の主観が入りすぎないような記述に配慮している。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	12		・個別支援計画に関しては6か月程度に1回保護者と面談を行い、内容の見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	10	1	・よくわからない。・必要に応じてガイドラインを参照しながら内容を意識して支援を行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8	2	・常勤がしていると思う。・コロナ禍のため行く職員は最小限にしているが必要に応じて参加できるときは主に施設長が参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	10	1	・常勤がしていると思う。保護者の方から行事予定表を頂き、確認しているが今年度はコロナ禍のため頻繁な変更もありその都度確認が必要なケースもあった。保護者からの要望に応じてスクールバスのルートについて学校に情報提供を求めたことがあった。・バス内での子どもの様子が学校から直接連絡が来たこともあり、情報の共有に配慮をもらっている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	6	3	・わからない。・常勤がしていると思う。・現在は医療的ケア児を受け入れていないが、主治医等に関しては緊急カード等に記入をお願いしている。

との連携	⑳	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	10			・わからない。・常勤がしていると思う。・幼児グループ利用児に関しては個別支援計画を共有し、実際にどんな対応を取ってきたかについて個別に確認している。
	㉑	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	5	2	1	・わからない。・常勤がしていると思う。・最近こちらから成人の事業所に情報提供を行っていないが数年前に保護者から依頼があり成人の施設用に個別支援計画のコピーを渡したことがあった。
	㉒	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	3		・常勤がしていると思う。・今年度はコロナ禍のため機会としてはなかったが旧総合福祉センターの ST や OT、心理士による巡回訪問の機会があれば利用するようにしている。ケースによって区の専門機関等と連絡を取り、情報共有や助言を受けるようにしている。
	㉓	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	3	5	・常勤がしていると思う。・活動時間では積極的な交流の機会はなく、保護者の方からも積極的に望んでいないという状況もある。・保護者が望まないケースがあり難しい。
	㉔	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	7	1		・わからない。・常勤がしていると思う。・デイサービス事業全体の代表者として幼児グループの職員が参加し職員会議等で情報共有を行っている。
	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	14			・送り出しの時に伝えている。・コロナ禍のため距離を取る必要があるが来降所時に会う保護者には様子を確認し、会えない場合は連絡帳や電話等で情報共有している。・連絡ノートや口頭で子どもの状況等について話す機会があり、課題について共通理解を持てるよう努めている。
	㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8	2	1	・支援方法を伝えて自宅での支援に取り入れてもらい行動が落ち着いてきたというケースがあった。
保護者	㉗	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	10	1		・常勤が行っている。・契約時に説明しており、契約書別紙の変更がある場合は年度当初に説明している。

への説明責任等	⑳	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	12			・常勤職員が行っている。・保護者から話があった場合は出来る限り相談に乗るようにし、その場で難しい場合は別途機会を(電話や対面で)設定できるようにしている。(29も参照)
	㉑	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6	4	1	・今年度はコロナ禍のため積極的にバザー等で交流の機会は設定しなかったが、幼児グループの就学勉強会に学童の保護者が参加する等ご協力いただいている。
非常時等の対応	㉒	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12			・常勤職員が行っています。・苦情と思われるものがあった場合はそれをきっかけにして保護者とコミュニケーションを取る機会ととらえ丁寧な対応を取るようになっている。(対応窓口は一本化している)
	㉓	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	14	1		・月1回事業所からのお便りを出し、法人として季刊誌を発行している。
	㉔	個人情報に十分注意しているか	15			・同意書を取り広報等での情報の扱い方に関しては配慮している。
	㉕	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	15			・絵カードを取り入れたり表記を大きくしたりと個々の利用者の意思をくみ取りやすいような工夫をしている。
	㉖	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6	5	1	・今年度はコロナ禍のためバザーや40周年行事は中止となり、実際に集まれる場は見合わせた。・ブログに活動の様子を掲載し少しでも開かれるようになっている。
	㉗	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	15			・感染症対策に関しては法人全体として委員会を設け更新した対応を書面で配布しホームページでも伝えている。緊急時対応マニュアルは年度当初に配布し、防犯マニュアルは一部見直しを進めている。
非常時等の対応	㉘	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	15			・訓練のリーダーも交代で全員が実施している。・訓練後、課題や気付いたことを出し合いよりよい対策を目指している。・月1回いろいろなケースを想定して避難訓練を実施し、それに合わせた形で災害伝言ダイヤルのテストも行っている。
	㉙	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	15			・定期的に研修が行われている。・法人全体として毎年虐待防止研修を行い、日々の振り返りの中で気になるようなことがあれば

					虐待に繋がる可能性もあるということを予防的な意味で伝えている。
④	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	10	1		・車いすのベルト装着については、保護者の同意を得た上で行き、個別支援計画にも記載している。
④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	8	2		・アレルギー表を作成しアレルギーのある利用者に関しては面談等の際に状況を確認し、医師からの見解についても保護者経由で確認している。
④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	15			・いつでも閲覧できるようにファイリングされている。・ヒヤリハットに関しては発生した時にその都度記入し皆に確認を促すとともに、3か月に1回まとめてどんな傾向があるかを確認できるようにしている。

\* 職員 15 名中 15 名提出（項目により無回答あり）

## 事業所向け自己評価表の集計結果

以上の結果を踏まえて、職員内で今後の支援の改善が必要だと思われる項目について話し合いました。

チェック項目	結果	改善点、その他
④ 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか ⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	自己評価アンケートの結果を分析して改善点を見出し、次年度のデイサービスの目標に組み入れて改善に向けて取り組んでいる。以上のことについて、非常勤職員全体にきちんと伝わっていないということがわかった。	自己評価表自体が、PDCA サイクルへの取り組みであり、日々の支援に組み入れていて、職員自身が実行しているということを全体に理解してもらい、今後も主体的に支援に取り組んでいけるよう伝えていく必要がある。
⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	「標準化されたアセスメントツール」とは何かよくわからずに答えた職員が多かったようである。指標の判定を行う際に行動判定票を使うことはあったが、発達検査等のアセスメントツールは使用していない。面談で保護者から聞いた発達検査の結果を参考にすることはある。	本人やまわりが困っていることについて日々の観察や記録を基に作成した個別支援計画と保護者面談の中で検討し、環境を整えており、本人の意思に寄り添うことで改善され成長する場面が多く見られるので、特にツールは使用していないが、今後指導員が日々の支援の中で気づいたことを簡単にチェックでき、総合的に評価して業務に活かせるツールがあれば活用していきたい。

⑭⑯⑰⑱⑲㉓㉔㉕㉖㉗の項目について	非常勤職員が「よくわからない」「回答なし」と記述した項目について、概要を伝えていく必要がある。	放課後等デイサービスの仕組みや役割等について、非常勤職員に広く理解してもらい、主体的に取り組んでもらえるよう、ミーティングやケア会議等で伝えていく。
-------------------	---	--

前回のアンケートにおける改善点の結果

2020 年度の課題	改善点、その他	2020 年度の結果
個別の課題を打ち合わせや振り返りの時間に職員全体で把握しあい、活動プログラムの中に具体的な支援を組み入れて設定していく。	専門性を取り入れた内容を盛り込みつつ、頑張らせすぎずに楽しめるプログラムを考えていく。	「にじのご商店街」というテーマを決めてイメージを持ちやすくし、個別の課題を取り入れながらアートや運動遊び等いろいろな活動に発展させることができた。職員からもいろいろなアイデアが出てモチベーションを上げることができた。2021 年度も継続してテーマを決めて職員の持ち味が発揮できるよう利用者の個別の課題を探りながら取り組んでいく。

これらの結果を踏まえて、今後改善するべきである支援の目標を、「職員それぞれが、ガイドラインに沿って主体的に支援できるよう事業所全体で取り組んでいく」としました。